

## ■「最前線はまかせろー夏に鍛える1部6校のDLたち」③

### DLで借りを返すー釧路公立大

釧路公立大ゴールデンクレーンズが、あと一步で初優勝を逃した昨秋の北海道学生選手権。悔やんでも悔やみきれないのが、優勝した北海学園大に6ー7で惜敗した一戦だ。守備合戦で競り負けた悔しさを振り返り、今季のDLリーダーの黒川恵生（3年）は「学園に借りを返す。全道制覇の鍵はDLが握っている」と力を込めた。

釧路公立大DLの先発は蓮井海都（4年）、北館来星（4年）、黒川、石山恭（2年）の4人。185センチ、128キロの黒川と177センチ、97キロの石山が中を固め、昨年のベストイレブンの蓮井とKも兼ねる北館の4年生2人がオープンサイドをカバーする。「4年生2人のスピードと中の2人の重さがチームの特徴。インサイド要員には95キロの中野勝也（3年）、帯広畜産大戦でQBサックした190センチ、90キロの林直希（1年）もいる」と黒川が自慢する。



今春のオープン戦は帯広畜産大に36-20と快勝したが、北海学園大には18-47で敗れた。帯広畜産大戦では、チーム事情から攻守兼任するDL陣に疲れの見える第4Qに追い上げを許した。北海学園大戦では許した7TDのうち6TDがラン、残る1本もキックオフリターンだった。「インサイドの経験の差が出てしまった」と黒川。収穫と課題を確認した春だった。8月7日からの強化練習では「低さと速さ」を合言葉にラッシュに磨きをかけ、14日からは4日間の合宿で秋に向けたチームの仕上げに励むつもりだ。

4年生の蓮井は「スピードを生かしたパスラッシュと経験を生かしたプレーリードでDLを引っ張る」と決意し、北館も「誰にも当たり負けしないスピードとパワーで戦う」とうなずく。黒川は「重さを生かしてダブルチームブロックもはじき飛ばす」、石山も「力強いプレーで毎試合QBサックを狙う」と意気込む。秋の本番では、フレッシュな若手の勢いと最上級生たちの経験で化学反応を起こし、悲願の初優勝を引き寄せるつもりだ。（塚田博）

**【写真】**

「全道制覇はDLが鍵を握る」と決意する左から北館、石山、黒川、蓮井